

事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 こども相談室てんとうむし

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	②	職員の配置数は適切である	4			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	2	ロッカーを使って、荷物を整理している	ロッカー内を使いやすく出来るようもっと工夫していきたい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	4			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		週1回の常勤ミーティングや、活動内容ごとのミーティングを月回おこなっている	短時間勤務のパートの方の参画が難しい。
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。		4		今後実施する予定
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公表している		4		今後実施する予定
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		今後検討していく
	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	月1回研修会を実施している	スタッフの経験年数などに応じた研修を計画していきたい
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成している	4		保護者と出来るだけコミュニケーションをとるよう意識している。	保護者とのコミュニケーション内容で、必要なことがスタッフ間で共有できるシステムをもっと工夫する必要がある。

	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		利用前の生育歴等を含めたアセスメントシートを利用し、把握している	アセスメント結果の必要な内容を全スタッフで共有できる方法を検討する必要がある。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		月1回活動内容ごとのミーティングを実施している	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		学習・粗大運動・手先の運動・生活自立技術・親子関係の領域ごとにバランスよく活動を考えるようにしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼時に確認している	
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		4	支援終了時に毎回行うことは出来ていないが気づいた点については共有している。	
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		児童ごとの個別検討会を実施している	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	2		今後連携していきたい
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				該当者なし

	②④	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				該当者なし
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			今後、連携できるよう、相談支援事業所と連携していきたい
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	3		今後、連携できるよう、相談支援事業所と連携していきたい
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		4		今後、連携できるよう、相談支援事業所と連携していきたい
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4		今後検討していきたい
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		2	町で行っている連絡会議に参加し、情報共有や勉強会を行っている。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		支援内容などを毎回共有するようにしている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	4		利用時に、家庭での困り事を共有し、解決法を伝えている。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		利用時に、家庭での困り事を共有し、解決法を伝えている。また、決められた時期ではない時でも、困った時はいつでも相談できるような雰囲気づくりを心掛けている。	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		今後検討していく。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		個別利用児のみのため、日々話ができる体制ができている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		てんとうむし通信を発行し、行事予定や活動内容ごとの様子などを記載している	
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	4			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		今後検討していく。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		保護者同席の個別利用児のみのため、書面を使っての説明のみにしている。 マニュアルはいつでも閲覧できるように配置している。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4		健康診断表を提出してもらっている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	医師の指示書はないが、フェイスシートによりアレルギーの把握をしている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		4	事例集は作っていないが、ミーティングで共有している。	困ったことリストを作成し、定期的に検討会を実施していく予定。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		法令の読み合わせ研修を実施した。	全職員に周知する方法を検討する必要がある。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			支援計画には記載していないが、重要事項説明書で説明している。